

AOB&GCOE Seminar

講師：荒井 朋子 博士 (東京大学総合研究博物館)

タイトル：「月科学概論：「アポロ」から「かぐや」まで」

2009年2月10日 (火) 14:00-15:30

東北大学大学院理学研究科 地震・噴火予知研究観測センター 別館第一会議室

講演要旨：

月科学研究は、月-地球システムの起源と進化、さらには、地球型惑星及び太陽系の起源と進化を理解する手がかりを得る上で重要な位置づけにある。サンプルとリモートセンシングデータの双方が得られることは、月科学の特異性であり強みである。アポロ試料や月隕石の物質科学研究により、ミクロンからセンチメートル規模の岩石鉱物組成、化学組成、同位体組成・年代、宇宙線照射年代が理解できる。また、周回衛星によるリモートセンシング探査により、メートルからキロメートル規模の化学組成、岩石鉱物組成、地形、重力場などの情報が得られる。サンプルデータとリモセンデータの融合により、局所的地質と全球的地質の双方が精度よく決定できる。これらの融合データは月の起源と進化解明の重要な制約となる。